

令和3年度の校内研究について

1 令和2年度のイワキタ

(1) 令和2年度の研究

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、4・5月の臨時休業を経て、6月1日より学校再開となりました。本校では、臨時休業期間中も「学びを止めるな」を合言葉に、学習計画表を使っての「主体的な学び」の構築を図り、また、文通方式で児童や保護者とやり取りを続けて信頼関係を築くことができました。学校再開前には、全児童（1年生は除く）に「なりたい自分」のワークシートを配布し、6月スタートにむけての一人一人の思いや決意を知った上で、全学級で学級活動(3)アの実践をすすめ、キャリアパスポートの記録をスタートしました。1学期末には、初めての児童会行事となる「1年生を迎える会」をオンライン動画の視聴という形で行いました。

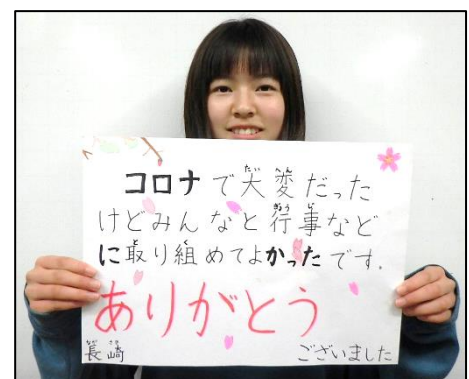
2学期には、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の対応措置としてこれまでと同じような運動会が開催できなくなったことを大きな転機であると捉えて、運動会自体をリセットし、どのような体育的行事を全校でしたいのかを児童に問いかけることで、「イワキタオリンピック2020」を児童主体のもとに実施することができました。今まで1日で決まったプログラムや係活動を成功させることを取組の主としていたものが、開閉会式を各1日ずつ設定し、低中高学年別の3日間の競技会を行い、計5日間のオリンピック週間としたり、オリジナルテーマソングの作成、開閉会式のオンライン会議システムを使ってのライブ配信や多元中継を行ったりと全く新しい価値を追求した取組となりました。

つづいての学習発表会も「イワキタ学びのフェスティバル(イワフェス)」として、全く新たな取組としました。学年ごとの体育館での発表となりましたが、舞台発表ではなく舞台とフロアの区別をつけずに参加者参加型にチャレンジし、学びを発表する場から「学びを伝える場」としての学習発表会の新たな姿をつくることができました。

3学期は、これまで行えずにいた縦割り活動に焦点をあて「イワリーDAY(岩倉北の縦割り活動の日)」と題して、6年生全児童が一人リーダーとして縦割りグループの活動を中心的に行う場を設定しました。6年生の中では自分の位置を固定化していた児童たちも、それぞれのグループでリーダーとして自覚し、1年生から5年生に能動的に関わる姿を見せました。また、1年生から5年生までもリーダーに「ありがとう」の気持ちを伝える場を設定することで、6年児童の自己有用感を大きく高めることができました。その流れをもって6年生を送る会についても新たに「イワエール」と題して、6年生への感謝の気持ちを動画で編集し、各教室で同時に動画視聴をしながら、イワオリに続いてオンライン会議システムを使ってライブで感謝の気持ちを6年生に伝える多元中継も行いました。

最後に6年生から全校児童にむけてのメッセージ中で、「**コロナ**で大変だったけど、みんなと行事などに取り組めてよ**かった**です。ありがとうございました」というメッセージが発せられました。このメッセージには、太字部分があり、それをつなぎ合わせると、「**コロナにかった**」となります。

このメッセージからも本校児童は、コロナに惑わされることなく新たな学校生活を切り拓き、自分達の生活を豊かにしてきた、まさに学校教育目標にある姿に近づこうとした1年であったと考えています。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策がすすみ、多くの制限をかけることになった1年でしたが、これだけ新しい取組を生み出した年はありませんし、それらをやりきることができた年ありません。イワキタがイワキタらしい「力」を発揮できた1年であったと思います。



(2) 令和2年度の特別活動とキャリア教育

令和2年度の特別活動は、令和元年度にすすめた1年間を行事でつなぐカリキュラムをさらに学級活動(3)やキャリアパスポートを活用することによって、児童にとっても指導者にとっても可視化できるよう取組をすすめました。

1年間の「児童一人一人のキャリア発達をつなぐことでキャリア形成を図る」ために、学校行事を中核として学級活動とキャリアパスポート、ポートフォリオを活用して、児童が自身の活動をリフレクションし、また、友達と共有して自己のキャリア発達を理解できるようにしました。

特に、イワオリ(運動会)やイワフェス(学習発表会)といった学校行事では、行事ノートを作成し自己のふり返しだけでなく、友達とノートを見合うことで価値づけを明確にしたり、人間関係形成の視点を入れたり個人の記事とともに成長の様子をポートフォリオとして保存することができました。これらの行事や取組ごとの自己のキャリア発達をつなげ、次の「なりたい自分」を学級活動(3)でさらに可視化し実践することで、節目ごとのキャリア発達が生きる力の土台となりキャリア形成に近づくことができるカリキュラムを編成することができました。

3学期の後半には、異学年交流の機会を設定することができるようになり縦割り活動を再開することができました。これも児童発案ではあり、名称も岩倉北の縦割りからヒントを得て「イワリー」として、縦割りを行う日(取組の準備やふりかえりも)を「イワリーDAY」としました。

このイワリーDAYの取組が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の中で十分に自尊感情を高めることができなかった6年生が自信を得る機会、「ありがとうのシャワー」を浴びる機会となり、自己有用感を高めること大きな機会となりました。縦割り活動の魅力と共に、児童の成長に及ぼす影響の大きさを再確認することができました。

横軸が明確になり、縦軸の存在の大きさに気づいた令和2年度の特別活動の取組となりました。令和3年度は、この横軸縦軸の特別活動を、学校行事を節目としてキャリアパスポート・ポートフォリオで児童の学びと成長を記録し、学級活動を通して実践につなげる「形」をつくっていきたいと思います。

2 令和3年度の学校教育目標の具現化と「育成を目指す資質・能力」について

(1) 学校教育目標

「自らすすんで学び ともに築き 豊かに生きる 岩倉の子」

(2) 育成を目指す資質・能力

- | | | |
|--------------|---------|---------------------|
| ○新たな価値を創造する力 | 「価値の創造」 | Innovation |
| ○学びを活かし自立する力 | 「自立」 | Independence |
| ○社会的包摂をすすめる力 | 「社会的包摂」 | Inclusion |

(3) 昨年度からの改善の視点

昨年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策をすすめる中で、様々な取組が変更や延期・中止になる中であったとしても、学校行事を節目としてキャリアパスポートとポートフォリオを活用し、学級活動(3)を要として、キャリア発達をキャリア形成に結びつけるカリキュラム・マネジメントをすすめることができました。

また、国語科の研究においても全学年が研究授業を公開し、京都女子大学の水戸部教授の指導を受けることができました。「読むこと」について、1年生から6年生の系統も整理がすすみ、並行読書と多読の効果を感じることができました。

今年度についても、キャリア教育の要としての特別活動の研究を中心として、学校行事と児童会活動、学級活動を横軸として取組をすすめていき、新たに縦軸として縦割り活動を様々な形態で取り入れて、横軸と縦軸のつながりを明らかにした新たなカリキュラム・マネジメントをすすめたいと思います。引き続き、学校行事を節目として、行事ノートやキャリアパスポート、ポートフォリオ等を活用し、学級活動を要としてキャリア教育が機能するようにすすめていきます。

国語科については、キャリア教育の要として実践した特別活動でつけた力が具現化される場としてとらえ、国語科の中でキャリア教育の実践をすすめるのではなく、キャリア教育で培った力が発揮される場としてとらえなおすものとします。例えば、言語活動を能動的に進めていくためには、特別活動で培った力を発揮することが強く求められると「とらえ」、言語活動の力が国語科単体で培われるものではなく、岩倉北の特別活動と強い往還関係があると考え、双方で児童の言語能力を育成し、様々な場面で活用できるようにすると考える…、という思考になります。

また、新たな価値の創造を授業づくりの視点に取り入れるために「**わからないから考える 失敗するからおもしろい 困ったときほど顔をあげ話し合うから楽しいんだ**」の岩倉北の「**学びのデザイン**」を設定し、秋田県大館市の**大館ふるさとキャリア教育の手法**に学ぶ機会を設定したいと思いません。授業中に「わからない」ことに価値があるという発想で授業を組み立ててみたいと思います。

3 研究主題

なりたい自分になるために「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」

～同学年内を「横軸」、異学年間を「縦軸」とした、新しい価値を創造する特別活動の展開～

4 研究内容と方向性

本校の研究で、育成を目指す資質・能力は、

- 新しい価値を創造する力
- 学びを活かし自立する力
- 社会的包摂をすすめる力

の3つの力です。

(1) 「新しい価値を創造する力」をつけるために

本校の想定する「学校」とは、児童と指導者がともに「学び合う」「高め合う」ところであり、一方通行の「教えるところ」・「教わるところ」ではありません。また、指導者が持っている「答え」に導く授業は、本校が目指す「**学びのデザイン**」ではありません。児童自らが問いを設定しその解決のために学ぶ「**主体的・対話的で深い学びの実現**」、能動的な学習者（アクティブラーナー）の育成をめざすものです。

今年度は特に、「**主体的（自分の意思）**」な学びから「**能動的（他者への働きかけ）**」な学びへ「**新たな価値の創造（Innovation）**」を目指します。

(2) 「学びを活かし自立する力」をつけるために

自ら未来を切り拓く「**自立（Independence）**」した人材を育てることが学校の大きな役割です。対話的・協働的な学びは、能動的な学習者を育てる根幹となります。他者と積極的に関わり自らの学びを深めていく能動的な学習者を育てることは、誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会づくりをすすめる基盤となり、「**学びを活かし自立する力「自立（Independence）」**」を培うことで、互いの学びを活かし合うことのできる児童の育成を目指します。

(3) 「社会的包摂をすすめる力」をつけるために

「豊かさ」とは何か、その答えは一人ずつが違い、また、同じであるところもあります。これらの違いを認め合い、同じでつながり合うことが一人一人のよさを生かし合う「**社会的包摂 (Inclusion)**」の考え方を育てます。どのように「生きるか」、一人一人の「生き方」につながる「問い」を探究することは、自分自身の学びや生き方を振り返り「これから」を考える岩倉北のキャリア教育の基本となるものです。

多様性を理解し、社会的包摂をすすめるためには、「場づくり」が大切です。特別活動、特に学校行事は、「場づくり」として多くの要素を含んでいます。しかしながら、学校行事については、実施することが目的化し、場づくりの機能を失ってしまうと、豊かな学びを得ることができません。また、多様性を理解しただけでは、「人は人、自分は自分」という消極的な多様性の理解にとどまり、人間関係形成能力を伸ばすことはできません。多様性を理解し、一人一人の特性を活かそうとする人間関係を能動的に生み出すことが、社会的包摂をすすめることになります。

特に、学校行事、集団宿泊活動、異学年交流で設定する「場面と役割」は、自己理解と自己肯定感の醸成、多様性と社会的包摂の理解を体験的にすすめる場として有効であり、キャリア発達をキャリア形成につなげる場として積極的かつ計画的な取組をすすめ「**社会的包摂 (Inclusion)**」をすすめる力を育てることを目指します。

5 岩倉北小学校の「学びのデザイン」とは

(1) これからの「学びのデザイン」

「アフターコロナ」「ウィズコロナ」の学びのデザインとは…、どれも「コロナ」が主役であって児童が主役ではない言葉です。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を前後して、学校や授業の捉え方は大きく変わろうとしています。だからこそ、対面形式を第一としたこれまでの「学び方」に固執しない、また、ICT活用といったネットワークを用いた技術革新に追われたい「学び方」をつくるのが大切であると思います。何かにとらわれたり、追われたりするのではなく、教育の本質を問う「学び方」づくりが大切になるのです。その中心となるが岩倉北小学校の「学びのデザイン」であると考えています。

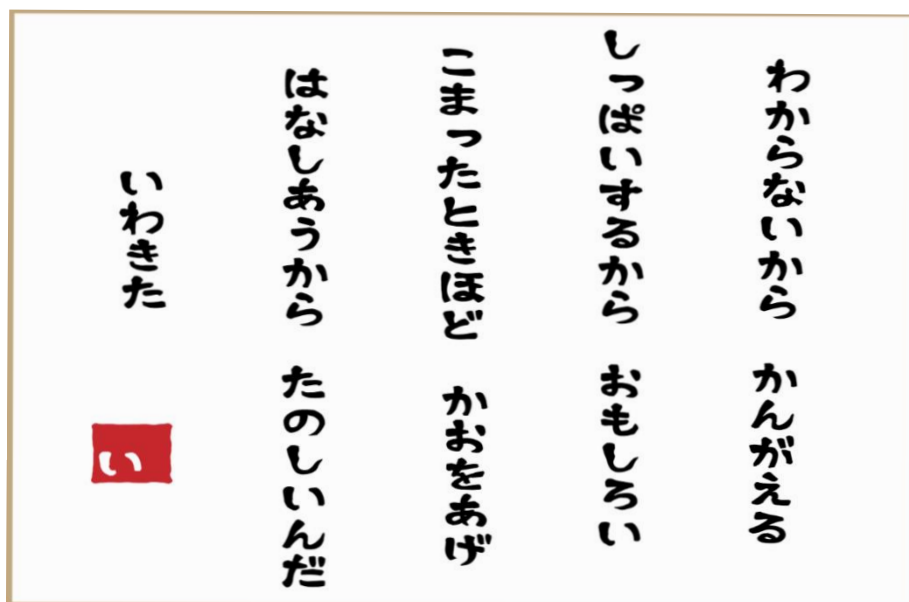
教育の本質を問う「学び方」づくりは、これまでの学校という枠組みを基盤に構成されるものではなく、学ぶ主体である児童を中心にしたものに編成していくことが必然となります。これは、「個別最適化」と表現されるものですが、あくまでも個別であって児童が孤立し、つながりを分断するものではありません。個別とは、一人一人の特性に応じることであって、一人一人が勝手気ままに振る舞うことではないからです。

今年度の校内研究を始める前に、学校ですすめる教育活動そのものの「価値」や「基準」も見つめ直すことが必要となってきます。これまでの価値観をリセットすることです。「教室で全員が前を向いて指導者の指示に従い正答を求める授業」は、岩倉北小学校の求める「学び方」ではないというリセットです。

まず、「教室」という枠組みは学校の教室というハード面を固定するものではなく、「学び場」としての空間（ネットワーク空間も含む）であると考えます。「全員が前を向かなくてはならない」状況は、教材や指導者が前方に提示されている、授業の主導権は指導者が保持しているという固定観念から生まれるものであり、一人一台のタブレットがあり、いつでもどこでも活用できる状況が当たり前になれば「前を見る」のではなく、教材や資料を見つめることが第一になります。また、児童の学びが主体の授業では、「指導者の指示」に従うことは授業の中心とはなりません。そして、指導者が準備した「正答」を求めることは、「問い」を求めるという児童主体の学びのスタート地点にすら立つことができません。

まさに、今年度本校の掲げるイノベーション「新たなものを創造し、社会に新しい価値を生み出すこと」が学びのデザインに向かう重要なポイントとなるわけです。

では、本校のイメージする「学びのデザイン」とはどのようなものでしょう。



本校の目指す授業では「わからない」は、マイナスではありません。わからないから考えるのです。この「わからない」をどのように設定するのか、そして、どのようにすれば「わからない」が「考えてみたい」に変容していくのか、これを考えることが「学びのデザイン」を追究する第一歩となります。

そして、「学び」の価値が、「失敗するからおもしろい」と捉えることで、失敗は失敗に終わらず「チャレンジ」であり、行動であり、探究であり、真理を求める本物の「学び」であると価値づけることができます。だからこそ、「困ったときほど顔をあげ」て意気揚々と学びに向かい、仲間とともに学ぶ場である学校の機能を最大限生かして「話し合うから楽しいんだ」につながるのです。

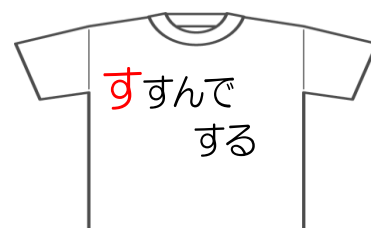
わからないからこそ、失敗するからこそ、困るからこそ、学びが深まるのであり、わからないことをマイナスと捉えて、失敗させない、困らせないための支援は教える側の保険でしかありません。

学びのスタートは「わからない」ことを「考えてみよう」とする「学ぶ場」を機能させることです。今年は、「わからない」からスタートする「学び」をつくっていきましょう。

今年の合言葉は、 **Fail fast, fail often.** (早く失敗しよう、たくさん失敗しよう) です。

(2) 児童から見た「学び方」とその視点

「わからないこと」ことに価値を求める授業づくりがは、互いを認め合い生かし合う社会的包摂がすすめられている場づくりから始まります。そのためには、児童が自らの「生き方」を見つめる視点が必要です。「視点」とは、「見方・考え方」であり、「問いかけ」でもあります。どのように自身の「生き方」を見つめていくのかを、「なりたい自分」に近づいているかを測る「問いかけ(視点)」つまり、能動的にキャリア発達が促されているかの確かめを3つの言葉で示しました。



①「好きなことをする」

能動的な学びの姿を指すものであり、「自らすすんで学ぶ」につながるものです。自らすすんで学ぶためには、受動ではなく、単に主体的でもなく、他者と関わる能動的な姿勢が大切です。内発的動機に基づく能動的な活動の原動力を「好きなことをする」として示しました。誰しもが「好きなことをする」ことに、努力は惜しみません。友達への関わりもです。

②「人のためにする」

社会的包摂がすすむ学校を実現するためには、誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る・豊かに生きることを常に意識することが重要です。その基となるのは、自他の肯定と尊重とともに、能動的・協働的な活動を大切にすることであり、「ともに」学校を「築く」姿勢と歩調を同じくするものです。自分とともに、他者を理解し意識することが能動的な学習者の育成につながります。

③「すすんでする」

岩倉北小学校の掲げるイノベーションとは、「新たなものを創造し、社会に新しい価値を生み出すこと」です。社会と関わる第一歩は、自ら動き出すことです。そして他者と関わることです。「能動的」な学びの第一歩は自分から「すすんでする」ことです。

また、これは児童の側だけでなく、指導者として目に見える「動き出し」だけを評価するのではなく、児童が「考えようとする」「考え始めること」等、結果や行動が伴わなかったこともすべてを「すすんでする」と見取り、児童を認める姿勢を大切にすることを含んでいます。

6 研究の進め方

(1) 研究仮説

研究主題を具現化するために、次のような仮説を設定します。

- ①学校行事を節目として、横軸と縦軸を意識したカリキュラム・マネジメントをすすめ、キャリアパスポートや行事ノート等を活用した学級活動(3)を効果的に入れ込むことで、自らの「生き方」を問い続ける児童を育てることができる。
- ②取組や単元を通して、授業やその他の様々な場面で「学び」を振り返る時間を設定することで、自らの学びを見つめ直し(見通し)、なりたい自分や学びの目的に向かう授業づくりができる。
- ③学校生活において、多様な考えや価値観、様々な情報などから他者と協働して課題・問題を解決する「学び方」を重視することで、社会とつながり、社会の変化を受け止め、社会的包摂を能動的にすすめ、学び続けていく力をつけることができる。
- ④「学びのデザイン」を大切にされた授業づくりをすすめ、「わからないこと」を解決する過程に価値を感じる学習集団をつくる。課題意識→自己選択→自己決定→個別・集団解決→自己実現のプロセスを繰り返し学び、共感的な人間関係を築きことができ、誰一人取り残さない豊かな学びをめざすという「学校の目的」を達成することができる。

(2) 研究の重点

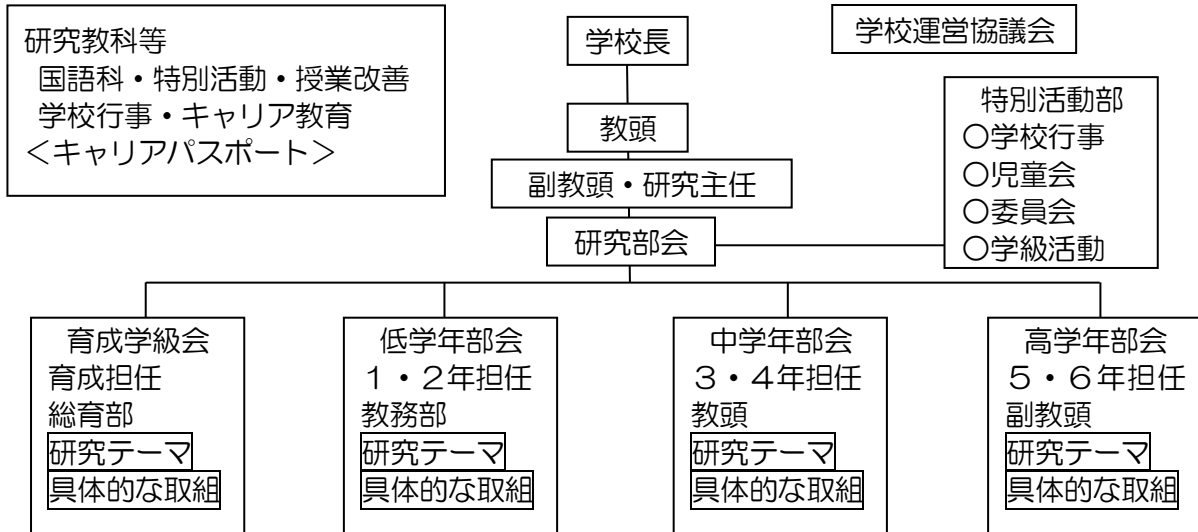
上記の仮説をふまえて、同学年内の取組のつながりを「横軸」、異学年とのつながりを「縦軸」とした新しい価値を創造するキャリア教育の要となる特別活動のカリキュラム編成を今年度の重点とします。本校の目指す新しい「価値の創造」とは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策がすすむ中で、これまでの取組の継承ではなく、これからの社会をつくるという視点を重視した児童中心の取組の創造であり、そのこと自体に「価値」を求めることです。

7 年間計画(2年次)

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等
令和3年 1学期	<p>2年次（1年次の研究の総括を受けて）の岩倉北小でつきたい力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな価値を創造する力 「価値の創造」 Innovation ○学びを活かし自立する力 「自立」 Independence ○社会的包摂をすすめる力 「社会的包摂」 Inclusion <p>の共有をはかり、同学年内の取組のつながりを「横軸」、異学年とのつながりを「縦軸」とした新しい価値を創造するキャリア教育の要となる特別活動のカリキュラム・マネジメントをスタートさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年次の研究の方向についての重点提案と共通理解（4月） <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の児童につきたい力を共有する。 ・「なりたい自分」になるために、「岩倉北小のつきたい3つの力」を可視化し、全学年で、児童の学びと成長をポートフォリオに保存し、キャリアパスポートに記録し、学級活動で積極的に活用する。 ・1年次に整理したキャリア教育の要としての特別活動のカリキュラム編成を横軸と縦軸を明確に位置付け、なりたい自分にむかって学校行事を節目としたカリキュラム・マネジメントをする。 ・児童が「安心」して学ぶことのできる場づくりとして、能動的な学習者と社会的包摂の考え方を生かした学級づくりをすすめる。 ○2年次の研究計画と研究仮説の構築（4月） ○キャリアパスポートを活用した学級活動（3）の授業公開（4月） ○「岩倉北小のつきたい3つの力」について学年部ごとの「姿」を定め、児童に提案する。（5月） ○各学年部での研究テーマの構築（5月） ○同学年内の取組のつながりを「横軸」、異学年とのつながりを「縦軸」とした新しい価値を創造するキャリア教育の要となる特別活動のカリキュラムを、児童がなりたい自分になるための道標として可視化できるカリキュラムとして再編する。 ○国語科の公開授業（6月・7月 指導助言：京都女子大 水戸部教授） ○児童の変容を理解するための1学期評価の検討（手段・項目・規準、6月） ○キャリアパスポートを活用した学級活動（3）の授業公開（7月） ○児童の変容を理解するためのアンケート①の実施（7月）
令和3年 2学期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の整理（第1次分析）（8月） <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の取組と児童の変容についての分析 ・アンケート①の結果分析とキャリアパスポートの活用（ポートフォリオ）の検討 ・研究発表会の指導案検討会 ○国語科の公開授業（9月～12月 指導助言：京都女子大 水戸部教授） ○運動会・キャリアパスポートの授業公開（10月） ○研究発表会の実施（12月）指導助言：日体大 橋谷教授 研究発表会を研究の成果を発表する場とし、研究の成果を問い、2年間の研究の総括を行う。学級活動（3）アイウの授業公開 ○児童の変容を理解するための2学期評価の検討（手段・項目・規準、11月） ○児童の変容を理解するためのアンケート②の実施（12月）

令和3年 3学期	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の公開授業（1月 指導助言：京都女子大 水戸部教授） ○研究の整理・総括（2月末） <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の研究における児童の変容，成果と課題の総括 ・アンケート②，評価及び研究発表会で明らかになった課題を明確にし，能動的な学習者育成の実現度を分析する ○キャリアパスポートを活用した学級活動（3）の授業公開（3月）
-------------	---

8 組織体制



※研究連携（授業研究会・研究発表会等への参加）

国語科：下京渉成小 総合：音羽小 特別活動：松陽小・秦野小（池田市）
キャリア教育：大館市・浜松市・川崎市

9 研究発表会（2年次）

（1）実施予定日時（令和3年度）

令和3年12月10日（金） 13時50分～ 学級活動（3）ア・イ・ウ

（2）内容等

- キャリア教育の要としての学級活動（3）ア・イ・ウの授業公開
- 研究協議会（分科会）
- 指導助言（日本体育大学 橋谷教授）

（3）キャリアパスポートの公開授業研究会（年間3回）

年3回，キャリアパスポートを活用した学級活動（3）の授業を公開する。